



研修・イベントレポート

在校生が訪れた卒業生の治療院見学日記

鍼灸学科1年夜間部 八木育恵

『'そこ'に求められる治療院・先生』

さらさ鍼灸整骨院、その‘さらさ’という語の包まれるような優しい響きに誘われて、三重県紀伊長島の港町にある、18期昼間部大西基喜先生の治療院を見学させていただくことになった。‘さらさ’とは、インドであらゆるものを包む布〔更紗〕に由来し、長寿・延寿という意味もあるらしい。治療院の大きな窓からは堤防越しにのどかな海と漁船、緑美しい山、青い空、ゆったりと空を舞う鳥が眺められ、窓辺には小花が風に揺れている。そこにいるだけでも心と身体がほぐれていくようなのんびりとした癒される空間で、鍼灸整骨の通常治療と週1~2日、午後ののみの鍼灸予約制治療をされている。

今回、その鍼灸予約制治療を見せていただいた。治療中、旅の話、地元の昔話、家族の話など、患者さんは長島氣質（‘活発’のこと）らしく、話題豊富におしゃべりされる。大西先生は寛いだ様子で相槌を打ち、治療の合間合間に話を返しながらも、その手は休むことなく患者さんの手當に集中していた。先生は私に患者さんの腰部の硬結を触れさせ、「これをとって（除いて）やれへんと辛いんや。‘手當’とは、‘手を当てて診る’ということからきてる。治療家はしっかりと手を当てて患者さんを手当てしてやらな。」とおっしゃった。患者さんは幾度となく、「そこそこ、先生、そこが痛いんさー。よー効いとる。先生は辛いところをぴしゃりとあてて治療して下さるで、樂う～になるんさ。今日も一段とよう響いとるさー。」と気持ちよさそうに言う。先生は謙虚に「たまたまさー。患者さんがよう動いてがんばってくれるとお陰で、ハリもよう響いて効いてくれるもんさー。」と笑い飛ばす。語尾に‘さー’とつく歯切れ良くテンポのいい長島弁で交わされる冗談交じりの言葉から、先生を頼りにしている患者さんと、患

者さんに頼りにされているという確信を持った先生とのとてもいい関係が伝わってくる。

千の治療院があれば、その治療法も患者さんへの接し方も千差万別、どれが正しいというのはなく、たくさんのアプローチの仕方があるのだと思う。マニユアルではなく、大切なのは“患者さんを思いやる手と心”を持って自分なりのやり方で患者に向かい応えていくこと。の中で『その地域で求められる治療院・先生』が生まれるのだと学ばせていただいた。患者さんが「この地に先生いてもらわんと困るんでさー」「正座ができるようになってありがたいさー。」「先生に診てもうとるお陰で最近皆に姿勢よくなつた言われるんさー。」「こういう時はこの病院のこの科にいったら一いつて病気もちゃんと診てくれ助かっつるさ。」「今日もぐっすり寝れるでさー。」等々、各々満足して喜んで帰っていかれる姿や声を実際に見聞きし、森ノ宮医療学園専門学校の後輩、また、これから鍼灸師を目指す後輩として、励まされるような温かく嬉しい気持ちに包まれながら、「お大事に！お気をつけて。」と患者さんを見送させていただいた。

最後に先生へ一言。

「長島町の患者さんがあんなに皆お元気なのは、美味しいお料理をいっぱい食べ、いっぱいおしゃべりし、いっぱい笑って、いっぱい働いて、遊んで、そして何よりも、‘鍼灸治療’で、多かれ少なかれ現れる体の不調を整え、健康管理でもらっているからなのでしょう。地域に求められる、あるべき治療院で、先生の‘さらさ’=長寿・延寿の想いが、たくさんの人々を包んでいるんですね！」

森荘同荘会in 沖縄(2005年2月11日)

大阪鍼灸専門学校の時代に、学校から5分の川向こうに4畳半のアパート森荘がありました。1期生から9期生までが、入れ替わり、立ち代り、下宿していました。ここから仕事や学校に通い、森荘以外の級友らも交えてハイキングやもちつき、バーベキュー、花火を楽しみ、鍼灸や人生について夜明けまで語り明かし、青春時代を過ごしました。隣には家主の森秀太郎元理事長一家が住んでいました。当時から、長い人では25年近く経った今、それぞれの故郷で、それぞれの人生をがんばって生きています。また寝食を共にした下宿仲間は、今でも家族的な付き合いを続けています。

数年前から、それぞれの居住地で森荘同荘会を開き、旧交を温めており、今回は、2期の稻嶺盛徳さんの住む沖縄での開催が決まりました。沖縄在住の本校卒業生のみなさんにも声をかけたところ、総勢11名が集まってくれました。大阪からは森俊豪理事長(2期)と奥さん、井上悦子(3期)、広島からは杉原朝香(2期)、杉原安子(4期)、福岡から安徳信二(4期)、沖縄在住者は、調剤薬局取締役の稻嶺盛徳(2期)ほか、整骨院開業の登川克也(4期)、病院勤務の上里勉(7期)、整骨院開業で格闘技のチームドクターの渡慶次克紀(8期)、鍼灸整骨院開業の仲宗根保(19期)の各氏が参加されました。1次会は、那覇市内のシャレた和食レストランで、おいしい料理に舌鼓を打ちながら参加者の近況や、昔話に花が咲きました。この時期、沖縄の各地ではプロ野球のキャンプが行われており、野

鍼灸学科3期昼間部 井上悦子

球だけでなく、マラソンや格闘技などスポーツの盛んな沖縄ではトレーナー的仕事の需要があることも伺いました。

参加された沖縄在住の卒業生の方たちは、これまで一度も沖縄でこのような同窓会が持たれたことがなかったとのことで、今回の集まりを非常に喜び、今後は20名余りの卒業生がいる沖縄で校友会沖縄支部を作り、年に1度は集まる機会をつくりたいと話していました。2次会では、地元の仲宗根さんが平和通りの「まさかやあー」という居酒屋に連れて行ってくれました。泡盛を飲みながら聴いた沖縄三線と太鼓のライブ、沖縄弁を交えたトークと沖縄民謡に胸を熱くさせながら、またの訪沖を約束しました。美ら海に囲まれた沖縄の2月は桜も散り始め、早や新緑の初夏を迎えるようになりました。

森荘同荘会、来年は富山で開催予定です。北陸地方の同窓生のみなさま、楽しみにしてください。森荘以外の同窓生のご参加も大歓迎です。



森ノ宮医療学園専門学校校友会第2回交流会

校友会総務担当 清水尚道

11月3日にホテルニューオータニ大阪にて第2回交流会が行われました。1期の卒業生から鍼灸学科29期・柔道整復学科2期の卒業生まで、ベテラン、中堅、若手それぞれの方が、年齢や経験の壁を越え「大阪鍼灸・森ノ宮医療学園の同窓生」として、楽しい一時を過ごしていただきたいと校友会で実行委員会を選出し企画しました。ご参加された皆様、いかがでしたでしょうか？

昨年度より、多くの方にご参加いただき、徐々に校友会員の皆様方に定着し

つつあるのかと思っております。来年度も開催の予定です。11月3日が卒業生の集まるきっかけとなるよう皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

